

医学部4年生へ「キャリア教育」が行われました

この講義は間もなく臨床実習が始まる4年次を対象に『医師としてのキャリア継続のため、ワークライフバランスの考え方を知るとともに、医師としての多様な生き方があることを学ぶ』ことを目的に5年前からスタートしました。

プログラムは、先輩医師のアドバイスや体験談を聞かせていただくキャリア講義と、与えられたテーマをもとにシナリオを作成し、ロールプレイを行うグループワークで構成されています。今年はコロナウイルスの影響でオンライン（Zoom）による授業となりました。

キャリア教育とは

様々な選択肢のある岐路に立たされた時に、自らのキャリア形成や、ライフイベントとの兼ね合いをどのように選択していくのかを主体的に考えてもらうことを目的としています。



医学教育センター 中川幹子先生
(循環器内科)

当日のスケジュール 2020.11.25

時間	内容	担当
9:00	講義説明、アンケート	中川幹子先生
9:15	キャリア教育 先輩医師からのメッセージ①	心臓血管外科 宮本伸二先生
9:35	キャリア教育 先輩医師からのメッセージ②	高度救命救急センター 松成 修先生
9:55	キャリア教育 先輩医師からのメッセージ③	産科婦人科 溝口千春先生
10:15	ワークライフバランス ミニ講座	腎臓内科 中田 健先生
10:25	グループ討論、発表の説明（例の提示）	中川先生、松浦先生、中田先生
10:30	グループ討論・グループごとにキーワードを基にシナリオを作成し、問題点の解決策を討論する。	12グループ 当日 Zoom にグループごとに入室
12:00	休憩	
13:00	キャリア教育 先輩医師からのメッセージ④	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 立山香織先生
13:20	キャリア教育 先輩医師からのメッセージ⑤	細胞生物学 花田俊勝先生
13:40	発表会（ロールプレイ含）・午前中の討論で作成したシナリオのロールプレイと、解決策の発表 各グループ5分	
14:40	講評・総括	松浦恵子先生
15:00	終了	

中田先生の

ワークライフバランスミニ講座

ON AIR
Zoom講義中

腎臓内科 中田 健先生
(女性医療人キャリア支援センター 副センター長)

中田先生が新人の時は『医師はいつ呼ばれても駆けつけて対応できることが当たり前』と思っていたが、時代が変わり、今の時代にはそぐわなくなったと感じているそうです。

「自分自身の健康を管理できないと患者さんに対し害を及ぼしてしまう可能性がある。休む勇気、ストップする勇気が極めて大事。ワークライフバランスがしっかりしていないと家族も不幸になってしまう。自分のやりたいことを見失わずに使えるものは使い、頼れるものは頼りながら自分自身を大切にすることが最終的に患者さんや家族を守ることに繋がっていくのではないか。」とワークライフバランスの大切さを強く話されました。

先輩医師からのメッセージ



心臓血管外科

宮本伸二先生

趣味のイラストや、キャリアシートをイメージしたスライドを活用してご自身のキャリアを紹介された宮本先生。「地産地消心臓血管外科医」を目指したきっかけや、座右の銘を用いながら、困難な場面をどのように乗り越えたかお話しされました。また大分大学医学部附属病院の心臓外科は女性が多く（これは全国的にも珍しいとのこと）、スキルアップやキャリアプランを視野に入れた海外留学の例も紹介され「(心臓血管外科は)忙しいが、バランスはいろいろ取り方がある。仕事も生活も全力を尽くしてほしい」とお話しされました。



産婦人科

溝口千春先生

「科」「結婚」「妊娠・出産」「サブスペシャリティ」というキャリアにおける4つの「選択」を行う経歴の中で「転機」となった場面や、子育てをしながら仕事をする母親の1日についてお話をいただきました。「(現実として)男性医師に比較して女性医師は途切れがち、遅れがちだが、独身、結婚、妊娠、出産、育児には個人の価値観と選択の自由があり、折り合いをつけて両立するのが『これからの女性医師の働き方』ではないだろうか」とまとめられました。また、溝口先生は、ご主人が当院の泌尿器科医で、留学等も経験されており、家庭と仕事の両立についての体験もお聞かせいただきました。

高度救命救急センター

松成 修先生



今後直面すると思われる人生の選択肢である「どこで研修するか」「どの診療科を選択するか」について、ご自身の経験を基にアドバイスをいただきました。また「初期臨床研修医時代の選択科目をどうするか」について、『早くから経験を積むために自分の目指す専門の科目を選ぶこともいいが、幅広い見地を養うためにあえて、将来選択しない診療科での研修を積むことも手段』と話されました。救命救急センターからのお話で、途中でコールが鳴るなど、現場の様子が垣間見える場面もありました。

細胞生物学講座



細胞生物学

花田俊勝先生

外勤先(大分のUSA)から登場された花田先生。これはオンライン開催ならではのです。先生が泌尿器科から基礎研究医を目指した理由や基礎研究医の魅力としてワークライフバランスや時間の取りやすさについてお話がありました。深夜まで研究に没頭した時期もあり、「ワーク」に傾く時があっても良いのではないかと、とお話しされました。臨床の視点も活かしながら、基礎医学を研究することの重要性や面白さなど、研究医のキャリアについての質問にもお答え頂きました。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

立山香織先生



進路選択においては、診療科の選択、ライフイベントへの対応、働く場所の3つに優先順位をつけて思い切って決定することが大事と話された立山先生。また、仕事と家庭の両立には日々の夫婦の協力が必要不可欠であり、表を用いて家事育児の役割分担の取組について紹介されました。忙しくても学校行事に参加でき、かつキャリア継続を可能にしたこととして「夫婦での子育て」「保育施設、病児保育の充実」「上司や同僚の理解」「世間の固定観念の変化」を挙げられました。

与えられたテーマとキーワードをもとに学生の作成したシナリオ

<テーマ> キャリア継続、転勤・留学

<キーワード> 若い医師夫婦。夫が米国留学を希望

<作成したシナリオ>

若い医師夫婦。4歳の子供がいる。妻の両親が近くに住んでおり、育児の手伝いをしてきているため妻はフルタイムで働いている。夫婦ともに専門医を取得している。ある日、夫が米国留学への希望について相談してきた。妻が上司に夫の留学について相談したところ、背中を押してもらうような言葉をかけられた。

<問題点>

- ・子供の環境が急に変わることの是非
- ・そもそも妻がついて行くかどうか
- ・妻のキャリアは?
- ・金銭的な問題、言葉の壁に対する不安

<解決策>

- ①家族全員で行く
- ②夫だけで行く
- ③子供が大きくなってから両親だけで行く
- ④留学を諦める

<最善と考える解決策と理由>

- ①家族全員で行く

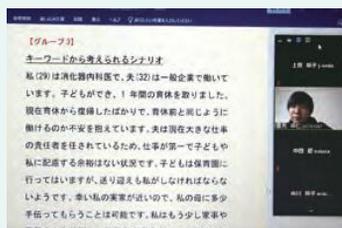
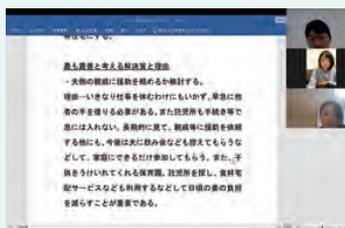
その理由：子供が小さいうちであれば、異文化に馴染みやすいと思われる。家族で留学する費用も、共働きで貯金したり、奨学金を利用することで賄っていく。言葉の壁の問題も考えられるため、英会話教室に通うなどして、準備を進める。妻のキャリアも、日本では学べない知識や手技について学ぶことができると考えれば、逆にチャンスでもある。



ロールプレイ発表の6グループは、シナリオに合わせてグループ全員が登場できるよう夫婦、それぞれの両親、子供、上司、先輩、保育士やナレーションなど多くの配役を設定していました。各自が担当する役割になりきって演技を披露し、別の場所に居ながら同じ場所にいるのと変わらないようなオンラインでのロールプレイを展開しました。

代表者発表の6グループは、提出したプロダクトの「キーワードから作成したシナリオ」、「提案された解決策について」、「最善とした解決策とその理由」について2分程度で発表し、その後先生や学生からの質問に答えました。

グループごとに
ロールプレイングをする様子

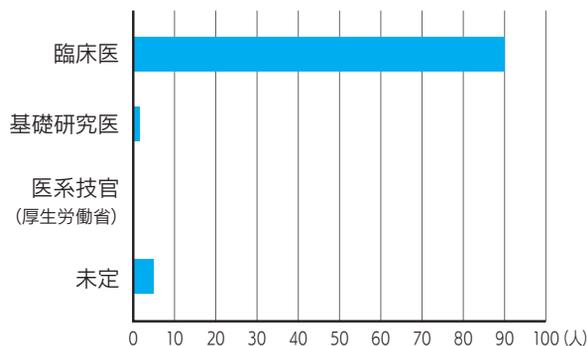


Zoomでプレゼンもお手の物

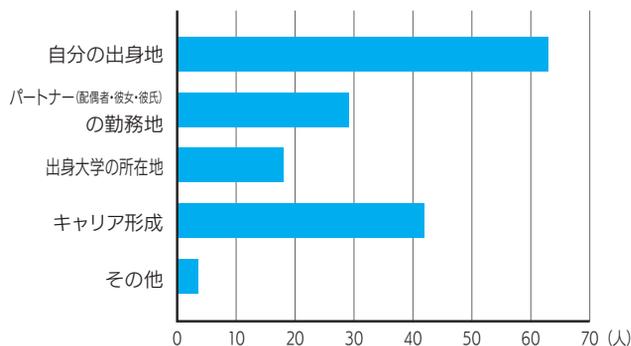
みんなどう考えている？将来のこと、キャリアのこと

講義前に行われたアンケートで、4年生の皆さんの9割は、現時点で臨床医としての将来を描いていました。卒業後の就職先には、自分の出身地のみならず、パートナーとの将来を見据えた勤務地を考えている人もいました。また、出身大学にこだわらず、キャリア形成を優先的に考えた勤務地を検討している人もいました。将来のライフイベントに遭遇した時の仕事の継続について、全体の6割は継続することをイメージしていましたが、3割程度の人はキャリアの中断または仕事をやめざるをえないのではと考えていることもわかりました。

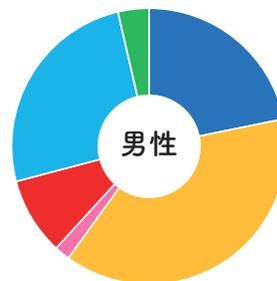
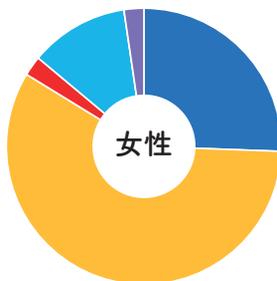
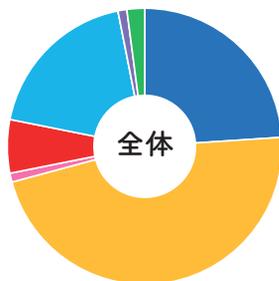
現時点での希望する進路は？



卒業後、仕事を行う地域・施設(主に初期研修等)について重視するものはどれですか？(複数回答可)



あなたは、女性の場合は自分が将来仕事に就いたとき、男性の場合は配偶者が同じ医療人の場合、仕事の継続についてどのような考えをお持ちですか。最も近い番号を1つだけ選んでください。



- 1 結婚や出産にかかわらずそれまでと同じだけ仕事を続けたい。または続けてほしい
- 2 結婚や出産後は少し仕事の時間を短くしてでも続けたい。または続けてほしい
- 3 結婚したら仕事はやめたい、またはやめてほしい
- 4 子どもができたら仕事をやめたい、またはやめてほしい
- 5 子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事にもどりたい、またはそうしてほしい
- 6 結婚はしたくない
- 7 結婚はしたいが、子どもはほしくない
- 8 その他

女性医療人キャリア支援センター センター長 松浦先生より



医学生物学 松浦恵子先生

本年度はコロナウイルスの影響で、例年と違いオンラインでの先輩医師のメッセージやロールプレイという、当初想像もしなかった形式になりました。中川先生の周やかな準備と先生方のご協力、また学生さんの柔軟な対応のおかげで、昨年までと変わらない講義が行われたのではないのでしょうか。昼休みを挟んで約5時間の授業の中で、先輩医師からの自らの経験に基づくアドバイスを頂き、またロールプレイによってこれから起こりうるライフイベントについて考える機会を持てたと思います。この授業を、これからのキャリアにぜひ役立ててほしいと強く願います。ありがとうございました。